班通信

No.18

イワウチワ

令和７年３月13日
さいたま市
岩槻班退職校長会
事務局：090-5826-3329（岡野）

充実した「現・退職校長教育推進協議会」

２月１日（土）「ふな又」で、現職14名、退職17名の31名が参加して行われました。

まず慈恩寺中高波國夫校長から、「キャリアプランニング能力の向上に向けて」と題した発表がありました。グローバル社会で活躍する人材育成に向けて、必要な資質を全教育活動の中で育成している様子を、情熱的に発表していただきました。特に、地域と連携した取り組みを積極的に取り入れている様子が印象的でした。

退職側は萩原昇会員が「私にもできる地域貢献活動」と題して、大越昆虫館やサイエンスプランツ活動、公民館等の事業で子ども達の身近な自然への興味・関心、科学的なものの見方等を育てる実践活動を具体的にお話していただきました。また、昆虫相の変化に基づく「埼玉県の亜熱帯化」についても発表していただきました。自分の研究分野や教員として培ったものを生かして、充実した第二の人生を過ごしている様子を窺い知ることができました。お二人の発表についての研究協議も活発に行われ、充実した協議会になりました。

発表者のお二人には大変ありがとうございました。また、懇親会でも現・退職者の交流が活発に行われ、大変和やかな会になりました。今後の学校との連携がますます円滑に行われるものと期待しております。

表情豊かな発表者

協議会の様子

和やかに懇親会

ヘリを飛ばそう

今年も「まちかど雛めぐり」でボランティア

今年も２月22日～3月９日に開催されました。本会の担当は例年通り「東玉大正館」での会場当番でしたが、会員20名で16日間の当番をすべて引き受けることができました。コロナ禍以降徐々に来館者が増えていましたが、今年も大変多くの見学者で賑わいました。

近年各地でひな祭りイベントが開かれていますが「岩槻には他で見られない良さがある」と話すリピーターもあり、地元の歴史や伝統に根付いた特色を大切にすべきと思いました。今年は人形作家の作品を展示した新たなコーナーも登場し、新鮮味も感じましたが、この展示のコンセプト「江戸から昭和の人形展」に立ち戻ってみる必要性も感じました。

来年もまた、多様な人々と触れ合うことができるこの活動を楽しみにしたいと思います。会場当番を担当された皆様大変お疲れさまでした。

お客さまをご案内

賑わう見学者

新コーナーも登場

「令和７年度定期総会」のご案内

１　日時　　令和７年４月19日（土）
　　11時30分開会
２　会場　　ほてい家
３　その他　総会終了後懇親会を行います

７年度からは新役員で運営することになります。定期総会で本会の活動の現状や事業計画を知っていただき、会員相互の交流を深め･広める場にしましょう。より多くの会員の出席を期待しています。

「班通信」休刊のお知らせ

令和４年度から発行してきましたが、諸情勢を鑑み今回№１８をもってしばらく休刊いたします。これまでのご支援・ご協力にこころから感謝申し上げます。ありがとうございました。（編集担当　大河内）

季節だより　ホトケノザ

花　閉鎖花も一緒に

仏様の台座に似た葉

茎が四角形のシソ科の越年草、ヨーロッパ原産で古く農耕文化とともにシルクロードを通って渡来した帰化植物です。畑や道端、空き地などにごく普通に生育し、時に群生することがあります。春の七草に含まれる「仏の座」はオニタビラコという別種です。周囲がギザギザした丸い葉が茎を抱くように向かい合わせについている形が仏様の台座に似ることが名前の由来です。花は赤紫で突き出た上下の唇が開いた形で「唇形花」と呼ばれます。下唇には赤い模様があり、蜜を求めてやってくるハナバチ類などの昆虫の着陸場所を示します。上唇には線状の模様が花の奥へ続き、着陸した昆虫を蜜のある場所へ導く役割をしています。また唇形花に混じってつぼみのまま開かない小さな球形の花（閉鎖花）がついています。閉鎖花はつぼみのままその中で自家受粉してクローンの種子をつくります。万が一昆虫による受粉ができなくても、子孫を残すための保険になっているのです。日照や栄養などの生育条件が悪いと閉鎖花が増えるといわれます。種子の表面には、アリが好んで食べる「エライオゾーム」という物質が付着しています。アリは種子ごと巣に運び、好きなエライオゾームだけを食べた後、周囲に種子を捨てます。その結果ホトケノザにとっては種子を広い範囲に散布できるのです。